

平成26年度 第1回宇都宮市男女共同参画審議会会議録(公開版)

1 日 時 平成26年7月23日(水) 午後2:30～

2 場 所 宇都宮市役所 議会棟3階 第2委員会室

3 出席者 15名

山口哲子会長, 菊池昌彦副会長, 安藤正知委員, 小倉崇徳委員, 金枝右子委員, 君島道夫委員, 五家真佐江委員, 五味田優子委員, 佐藤きよ子委員, 高橋哲也委員, 中村明美委員, 野村ひとみ委員, 氷室初音委員, 山口建一委員, 横松宏明委員

4 傍聴者 0名

5 議 題

平成25年度男女共同参画の推進に関する年次報告について

委員

全体的には達成状況が9割以上である二重丸の評価がたいへん多い。事業の実施として達成状況が9割以上の事業が多いことは大変良い。しかし、事業実施が目的ではなく、男女共同参画意識が醸成されていく結果が計れる指標はあるのか。

事務局

第3次行動計画については、「社会全体で男女の地位が平等となっていると感じる市民の割合」等、7つの成果指標を設定し、平成29年度までに目標達成の状況を確認する指標としている。

平成25年度は計画開始年度ということで、実施状況のみを報告させていただく。

今後の報告においては、基本目標Ⅰの「社会全体で男女の地位が平等となっていると感じる市民の割合」等、世論調査等による成果をお示ししていきたい。

委員

県でも国の動向を見極めながら、企業等で働く女性の活躍を推進するため「TOCHIGIで輝く☆『働くウーマン』プロジェクト」を開始した。

資料3のP4「②企業や地域における管理職・役員等への女性登用促進に向けた啓発」について、①「啓発パンフレットの配布部数」について計画上6,000部、平成25年度は0部となっているが、いつ実施予定なのか。また内容はどのようなものか教えていただきたい。

②「民間企業で管理職等に女性を登用している割合」の目標値40%、平成24年度において33.3%、係長相当職以上としているが、通常は国・都道府県とも管理職は課長相当職で捉えている。約10%程度であり、国が提唱している「20—30」、2020年に30%へ届くようにしようという目標と基準が一致していない部分については独自の調査に基づくものなのか、教えていただき

たい。

③「市管理職における女性職員の割合」は目標が上昇、H25は6.8%とあり、県としても5から6%を推移しているので非常に上げなければならないと考えているが、これらについてもどの様に考え、どう取り組んでいくか教えていただきたい。

事務局

①パンフレット等の作成・配付について、平成25年度は配付まで至らなかった。

具体的には、地域活動というものが、男女ともに行われている現状がある中で、連合自治会長などの役職に女性は少なく、39人中1人であり、その数を増やしていくことも重要であるが、その下の副会長や会計などの役職にいる女性はたくさんいる。一律のパンフレットによる啓発は難しい。方向性としては、地域で活躍している女性を情報誌で紹介するという企画を考えている。

②民間企業の女性管理職、役員については、計画策定時の数値として「労働条件実態調査」の数値を活動指標に用いている。3年に1回の調査のため平成25年度は表示不可（－）の表記となっている。国の考え方とは別の調査に基く指標としている。

③市の課長以上の女性管理職の割合としては、6.8%となっているが、直近の数値であると7.2%となっている。この数値をさらに上げていくため、今年度、「(仮称)宇都宮市女性職員活躍推進アクションプラン」を策定する運びとなった。

委員

平成25年度の総括において、基本目標Ⅱについては「今後とも国・県の動向を的確に捉え、企業・地域・関係団体等と連携し推進し～」とあるので、県としても県を引っ張っていただいているのは宇都宮市、宇都宮市にあるたくさんの企業、宇都宮市の職員の方々であるという考えがあるので、是非とも県と連携していただき、目標に向け今後の取組を進めていただきたい。

商工振興の調査による活動指標のデータについては、アンケートではなく3年に1度の基本的に行なわれる調査のようなので、可能であれば参考欄に「課長職以上」というデータの記載をお願いしたい。

会長

要望としてご意見いただきましたが、これらの部分は県と連携して、情報交換等できると思いますので、検討をお願いします。

委員

この労働条件実態調査の数値データはどういった形でとっているのか。このアンケートは市内企業に対し任意の回答か。

事務局

「労働状況実態調査」については、商工会議所から市内の商工会議所に登録になっている中小企業の中からランダムに抜粋し、回答を得ている。業種別に満遍なく入るような形にしているが、数字がすべての企業を網羅した数字とは言いがたいのが実際である。

委員

33. 3%（平成24年度）というのは目標値か。

事務局

計画策定時、平成24年度の数値は、実績値である。

委員

実数値であると、宇都宮市内の企業の係長以上の33.3%が女性であるということなのか。データの取り方に非常に問題があるのではないか。全国的に見ると厚生労働省の調査によると係長職以上の平均は10%前半であり、宇都宮市の数字が本当であるなら、全国トップとなり「男女共同参画のまち」となるが、全国の数値とあまりにもかけ離れている。係長以上の3分の1が女性であるとは考えにくいし、感覚としてもずれていると思う。市としてデータの取り方を変えたほうが良い。かけ離れた数値だと思うので、検討していただければと思う。

事務局

指摘について関係機関と再度調整し、検討していきたいと思う。

事務局

表現が分かりにくい面は見直しをかけるが、これを用いた趣旨は、「33.3%」とは係長相当職以上に女性を登用している企業が調査の中では33.3%ありましたという意味である。人数ではなく、係長以上に女性を登用している会社の割合である。

委員

そうであるなら、1人でも係長以上の女性がいる企業の全国平均は34%程度なので、全国平均ぐらいなのかなと理解できる。

目標値として1人でもいればというのもいいが、管理職10人中女性が1人なのか、3人なのかなど、何人中何%が役職についているかといったことも非常に重要だと思うので、データを取ることを検討していただきたい。

委員

民生委員児童委員の現状についてですが、民生委員が約800名いる。内6割3分が女性である。男性の方が少ない。市内39地区あり、昨年12月の切替時、地区会長の15名が女性。その3年前の切替時には半数近い19名が女性であった。宇都宮の会長は男性だが、県の会長は、女性・女性・男性・男性と来ている。民生委員の現状は女性優位の時代が益々来ると思われる。

委員

施策の方向7「性に対する理解促進と生涯を通じた男女の健康支援」について「セクシャル・マイノリティ」の問題について、どのような配慮や取組を行なっているのか。人権教育になってしまうとは思いますが、セットとして考えられる。ニュースにもなったが、セクシャル・マイノリティの2分の1が学校時代に自殺を考えたことがあるなどの統計も出ている。なかなかカミングアウトできない方が

多く、数値が明らかになっていないところもあるが、少なくとも数%の割合で存在するので、配慮を含めた教育など情報があつたら教えていただきたい。

事務局

人権に関する相談として年数件程度ある。人権問題として啓発して行く必要もあることから、12月人権週間等においてセクシャル・マイノリティへの理解を進めるためのパネル展なども平成24年度から実施している。

委員

計画にある「性といのちの健康教育」として正しい教育としてはどのような取組があるか。人権の話でもあるが、必ず男女に関する話として必ずセットで出てくる問題なので、性といのちの健康支援出前講座を平成25年度は、3校4573人とかなりの生徒に対し行なっているところなので、人権の方ではここまで取組むのは難しいと思うので、ぜひ、せっかく学校へ行くのであるなら連携していただいて、活かしていただければと思う。

会長

宇都宮市については市民に対する申請書類等について見直し、必要無い場合には性別区分を削除するなど、不要なものに性別事項を入れていない。マジョリティはいいが、マイノリティとしては苦痛を感じることもあることに対応している。議会でも取り上げられ見直ししたことについて、宇都宮市は先進的であり、私の住む自治体にも紹介している。

また、デートDV防止啓発パンフレットの表現においても、サブテーマについて「男女の～」という表現を今年度の改定において「ふたりの～」と修正するなどの配慮をしている。

性は多様であるという視点を入れていただくといいと考えている。

委員

7月19日 南図書館において「知事と話そう元気フォーラム」の懇談に何人かで参加した。「労働」や「高齢者医療福祉」など関心のあるテーマ10項目から参加者120名が選ぶ中で、「子育て・男女共同参画」が3番目に多かった。男女共同参画の意識が高まっていると感じている。

ちなみに1位が高齢者福祉、2位が安全安心な地域社会であった。多かった上位2つについて知事が取り上げてお話しした。テーマとしては取り上げられなかったが、先は明るいと感じられた。

会長

ご質問ご意見を頂戴いただきまことにありがとうございます。続きまして、「その他」について委員の皆様からはなにかございますか。

その他

委員

首相の女性の活躍推進なくして日本経済の発展はないという考えの下に、国を挙げた取組が展開されており、県としてもその動きに合わせ、本年度、県においても「TOCHIGIで輝く☆『働くウーマン』プロジェクト」として7つの事業を立ち上げ、その集大成として報告会のようなものも開催

しようと考えている。

7月7日にはトップセミナーとして企業経営者の方々にそういう意識を持っていただきたいと考えて集まる機会を設けた。

先週は、企業の中で働く若い女性の方々に、これからは皆さんが活躍しないと栃木県の経済の発展はないということを伝えながら、活用に必要な知識を身につけていただこうと、4回シリーズの講座、キャリアマネジメント講座の1回目を開催した。約30名の女性が集まった。10年継続すれば300人を養成できることになり、その人たちがロールモデルとなることで活躍する女性が増えることを期待している。

3番目の事業として、8月21日には宇都宮大学の協力を得て、宇都宮大学のキャンパスにおいて一般公開講座を開催。地域に開放した公開講座として大学生や市町職員、企業の方にも広く聴いていただきたい。

宇都宮市においても周知の協力をいただきたい。

委員

今年、栃木県弁護士会においても「両性の平等部会」を設置した。委員会化はしていないが、ようやく部会が立ち上がった。近いうちに委員会になると思う。弁護士会としても男女共同参画、両性の平等についてとりくんでいるので、市とも講義等、連携していければいいと考えている。

なにかあったら連絡いただきたい。

委員

なぜ、「男女共同参画」が、「まちづくり部」に所属なのか。「まちづくり」イコール「自治会」のようなイメージがあるが、なぜそこに「男女共同参画」がついているのか。

事務局

市役所の機構改革によるもの2年前に現在の「市民まちづくり部」ができたもので、それまでは、地域自治として自治会やNPO等に関わる部として「自治振興部」、市民課や国際交流、生活安全、男女共同参画など様々な意味での市民の活動のバックアップする部として「市民生活部」が存在したが、市民主体のまちづくりを進める趣旨で、統合したものである。

市民へのサービスや市民活動の窓口として最前線のセクションだとしてご理解いただきたい。

会長

「男女共同参画はまちづくりである」という表現はあった。松戸市の船橋久美子さんの頃、基本法が成立した頃からあった考え方で、男女共同参画とまちづくりは決してミスマッチではない。まちづくりの中でこそ男女共同参画を進めていくという考え方があったと記憶している。

委員

お話をいろいろ聴いてみると、小・中学校教育に求められる要素が非常に大きいと感じられた。

特に初等教育・小学校では、人権に関わることでもあるが、「男だから」「女だから」といった言葉ひとつについても、最近は出ない。

例えば、ランドセルの色についてもひと昔とはまったく違う。「男は黒、女は赤」というのとは今は

無い。女の子でも水色等様々である。学校教育、家庭教育も人権という意味からも大分変わってきている。

学校においては名簿についても男女混合である。身体計測等における区別はあるが差別はない。

学校教育の場でも、家庭教育の場でも人権という分野から、裾野からの子供たちの教育が、男女共同参画の分野には大きな要素を占めていることを肝に銘じて教育にあたっていかなければならないと再認識した。

やはり教育というのは何事にも大切であると思う。

委員

雇用均等室は法の施行機関であり、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法などについて事業主が法を守っているかどうか確認している。年間500社ほどの県内企業を訪問しており、私自身も20から30社ほどまわっている。

女性の管理職登用について企業に伺うと、女性社員からは出世したくないと言われ、その理由として「責任を持ちたくない。」と挙げられるとのことであった。女性の管理職登用には女性の意識がネックとなっている。一方、男性は、責任を持つ立場になりたいと思う傾向があるとのことであった。しかしながら、最近は男性も多様化が進んでおり、責任を持ちたくないと考え一般職を選ぶ人も出ている。

大学までは同じように育ってきたのに、なぜか就職の段階になると意識が変わってしまうのか。学校においては男女平等で、男女の性別による取扱が違わないのに、就職の段階になると壁にぶつかって、男性と女性の意識が違ってしまう。

それは、職場だけではなく家庭の話もあって、結婚後、出産、子育ては女性が行うものという考え方が、栃木県ではまだ根強いものがある。

法律で「ああしろ。こうしろ。」ということもできるけれども、併せて意識啓発が大事であり、職場だけではなく、社会、家庭も含めてやっていかなければと思っている。

雇用均等室としては、啓発が重要であり、県・市とはいろいろ連携させてもらっているので、引き続きお願いしたい。

会長

以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。